盛岡市内遺跡群

—令和２年度発掘調査報告書—

西鹿渡遺跡　第39次
百目木遺跡　第38次

2023. 1
盛岡市教育委員会

盛岡市内遺跡群

―令和２年度発掘調査報告書―

西鹿渡遺跡　第39次
百目木遺跡　第38次

2023. 1
盛岡市教育委員会

序　　言

盛岡市は、北上平野を縦断する北上川と、その東西に位置する北上山地と奥羽山脈のそれぞれから流れ出る中津川・雫石川との合流点に位置し、雄大な岩手山や姫神山を望む約30万人の人口を抱える岩手県の県都です。北東北の拠点都市として緑豊かな環境と高度都市機能の調和したまちづくりを目指しています。

市内には、旧石器時代から江戸時代まで、およそ780箇所の遺跡が存在します。その中には、国・県・市指定の史跡として保存・活用が図られているものもありますが、各種開発等によって姿を変え、消滅していく遺跡があることも事実であります。

盛岡市では、文化財保護の立場から、国の補助を受け市内各地の個人住宅建築に伴う調査を継続的に実施しており、当市の歴史を紐解くうえで、大変貴重な成果を上げております。

本書は、令和２年度に実施した市内遺跡群の発掘調査報告書であります。市民の皆様の地域理解の一助として、また学術的な研究資料として広く活用いただけましたら幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なる御指導や御助言を賜りました文化庁文化財第二課、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課、発掘調査に御理解と御協力を頂いた地権者各位及び地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和５年１月

盛岡市教育委員会
教育長　多田　英史

例　　言

1　本書は、令和２年度国庫補助事業「盛岡市内遺跡群」の発掘調査報告書である。

2　本書は遺構及び遺物の実測図などの資料呈示を意図して、編集と執筆を鈴木俊輝が、執筆を津嶋知弘が担当し、菊地幸裕、神原雄一郎、今野公顕、花井正香、今松佑太、杉山一樹、室野秀文、佐々木あゆみ、浜谷佑が協力した。

3　遺構の平面位置については、過去の調査との整合性のため日本測地系を用い、平面直角座標系Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。なお、方位は座標北を表している。

西鹿渡遺跡　　調査座標原点　Ｘ－ 37,400.000 m　Ｙ＋ 28,600.000 m　＝　ＲＸ± 0.000　ＲＹ± 0.000
百目木遺跡　　調査座標原点　Ｘ－ 38,000.000 m　Ｙ＋ 27,500.000 m　＝　ＲＸ± 0.000　ＲＹ± 0.000

4　高さは標高値をそのまま使用している。

5　土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文で記述し、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』(2013 小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業㈱発行）を参考にした。

6　遺構の名称及び記号は次のとおりである。また「竪穴建物跡」の名称については、『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』(2010 文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編集）に倣っている。

遺　構	記号	遺　構	記号	遺　構	記号
竪穴建物跡	ＲＡ	土　坑	ＲＤ	溝　跡	ＲＧ

7　本書中の地図は、国土交通省国土地理院発行の２万５千分の１「盛岡」「矢幅」の地形図を使用し、５万分の１に縮小・編集したものを掲載している。

8　発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管してある。

9　本調査の一部については発掘調査成果報告会や速報展等で報告・発表しているものがあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

10　調査体制　－令和２年度～令和４年度－

［調査主体］　盛岡市教育委員会

教育長	千葉　仁一（～R3年度）　多田　英史（R4年度）	
教育部長	豊岡　勝敏（～R2年度）　岡市　和敏（R3年度）	
	渡邊　猛　（R4年度）	
教育次長	大澤　浩　（～R2年度）　川原　善弘（R3年度）	
	工藤　浩統（R4年度）	

［調査総括］　歴史文化課　遺跡の学び館

課長兼館長	福田　淳　（～R2年度）
	割船　活彦（R3年度～）
館長補佐	三浦　志麻（～R2年度）
	大森　勉　（R3年度～）

［調　　査］

文化財副主幹	室野　秀文（～R2年度）
文化財副主幹	菊地　幸裕
文化財副主幹	津嶋　知弘　※調査・整理（百目木遺跡）
文化財主査	神原雄一郎（R3年度～）
文化財主査	今野　公顕
文化財主査	花井　正香
文化財主任	似内　啓邦（R2年度）
文化財主事	鈴木　俊輝　※調査・整理（西鹿渡遺跡）
文化財主事	今松　佑太（R3年度～）
文化財主事	杉山　一樹（R3年度～）
文化財調査員	今松　佑太（～R2年度）
文化財調査員	室野　秀文（R3年度～）
文化財調査員	佐々木あゆみ　※調査（百目木遺跡）・整理（西鹿渡遺跡）
文化財調査員	鈴木　郁美（R2年度）
文化財調査員	浜谷　佑　（R3年度～）

［管理・学芸］

主任	杉浦　雄二
文化財調査員	伊藤　聡子
学芸調査員	千葉　貴子
学芸調査員	樋下　理沙

［発掘調査・室内整理作業］

阿部真紀子、佐々木富士子、佐藤美智子、佐野光代、袴田英治、細田幸美、村上幸子、村上美香

［地権者・助言・調査協力］

高橋　宏佳、金澤　聖也、岩手県教育委員会

（五十音順、敬称略）

《遺物の表現について》

（1）土器

a　土器の区分は、須恵器、あかやき土器、土師器に大別した。

b　土器の実測図・拓本の縮小率は1/3とした。

c　挿図の配列については、器種・器形・出土層位でまとめた。

d　稜線・沈線は実線・破線で表現し、除影は表現していない。

（3）土製品、石製品

a　土製品の縮小率は1/2、石製品の縮小率は1/2及び1/3とした。

b　石製品の自然面はドットで表現した。

（4）挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

（例）　ＲＡ369　Ｂ層　　→　ＲＡ369竪穴建物跡内埋土Ｂ層より出土

（例）　Ｇ９－Ｂ21　Ⅵ層

↓　↓　↓

※１　※２　※３

※１　調査座標原点ＲＸ±０　ＲＹ±０を起点として、Ｘ・Ｙ両軸を50ｍごとに区切る大グリッドを設定し、Ｘ軸線上を西から東へＡ・Ｂ・Ｃ…Ｗ・Ｘ・Ｙ（東から西への場合は－Ａ・－Ｂ・－Ｃ…－Ｗ・－Ｘ・－Ｙ）、Ｙ軸線上を北から南へ１・２・３…23・24・25（南から北への場合は－１・－２・－３…－23・－24・－25）と付し、北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組み合わせを大グリッドと呼称した。

※２　大グリッドを２ｍごとに細分割し、小グリッドを設定し大グリッドの呼称を再び用いた。よって大グリッド－小グリッドという組み合わせで、遺物の平面出土地点を２ｍごとに表示した。

※３　遺物の出土層位を表している。

《遺構の表現について》

遺構の挿図中、説明する当該遺構については実線で表現した。また、説明遺構と切り合った遺構については一点鎖線、オーバーハング及び推定線は破線で表現した。

目　　次

序　　言
例　　言
目　　次
表　目　次
挿　図　目　次
写真図版目次

Ⅰ　令和２年度発掘調査の概要・・1
Ⅱ　西鹿渡遺跡（第 39 次調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅲ　百目木遺跡（第 38 次調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

写　真　図　版
報　告　書　抄　録

表　目　次

第 1 表　令和２年度　盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第 2 表　西鹿渡遺跡調査一覧・・6
第 3 表　百目木遺跡調査一覧・・18
第 4 表　百目木遺跡第 38 次調査遺構土層観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第 5 表　百目木遺跡第 38 次調査出土土器観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第 6 表　百目木遺跡第 38 次調査出土石製品観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

挿　図　目　次

第 1 図　地形分類と周辺の遺跡分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第 2 図　西鹿渡遺跡の位置（1：50,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第 3 図　西鹿渡遺跡全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第 4 図　西鹿渡遺跡第 39 次調査全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第 5 図　ＲＡ 061 竪穴建物跡（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第 6 図　ＲＡ 061 竪穴建物跡（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第 7 図　ＲＡ 061 竪穴建物跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第 8 図　ＲＤ 046・ＲＤ 047 土坑、ＲＤ 046 土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第 9 図　百目木遺跡の位置（1：50,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第 10 図　百目木遺跡全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第 11 図　百目木遺跡第 36・38 次調査全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第 12 図　ＲＡ 125・126 竪穴建物跡、ＲＤ 114・115 土坑、ＲＧ 006・007 溝跡、ＲＤ 901 ～ 903 土坑（１）・・24
第 13 図　ＲＡ 125・126 竪穴建物跡、ＲＤ 114・115 土坑、ＲＧ 006・007 溝跡、ＲＤ 901 ～ 903 土坑（２）・・25
第 14 図　百目木遺跡第 38 次調査出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第 15 図　百目木遺跡第 38 次調査出土石製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

写 真 図 版 目 次

第１図版　西鹿渡遺跡第 39 次調査区全景、RA061 竪穴建物跡
第２図版　RD046 土坑、RD047 土坑、RA061 竪穴建物跡遺物出土状況、RA061 竪穴建物跡土製紡錘車出土状況、RA061 竪穴建物跡切子玉出土状況、RD046 土坑遺物出土状況、西鹿渡遺跡第 39 次調査区、試掘トレンチ
第３図版　RA061 竪穴建物跡出土土器、RD046 土坑出土土器、RA046 土坑出土底部穿孔小型坏、RA061 竪穴建物跡出土土製紡錘車、RA061 竪穴建物跡出土切子玉
第４図版　百目木遺跡第 38 次調査区全景、RA125 竪穴建物跡、RA126 竪穴建物跡、RA126 竪穴建物跡出土土器、RA126 竪穴建物跡石組カマド復元

Ⅰ　令和２年度発掘調査の概要

１　令和２年度事業の概要

発掘調査　令和２年度は、発掘調査・試掘調査をあわせて36件実施した（学術調査・現状変更除く）。このうち国庫補助事業（盛岡市内遺跡群発掘調査事業）で実施した発掘調査は本調査２件である（第１表）。

遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因
西鹿渡遺跡（第39次）	盛岡市三本柳２地割37－８	19.05.31～07.01	66.1㎡	個人住宅建築
百目木遺跡（第38次）	盛岡市三本柳５地割41－２	19.10.13～10.27	58.5㎡	個人住宅建築

第１表　令和２年度　盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧

２　盛岡の地形・地質

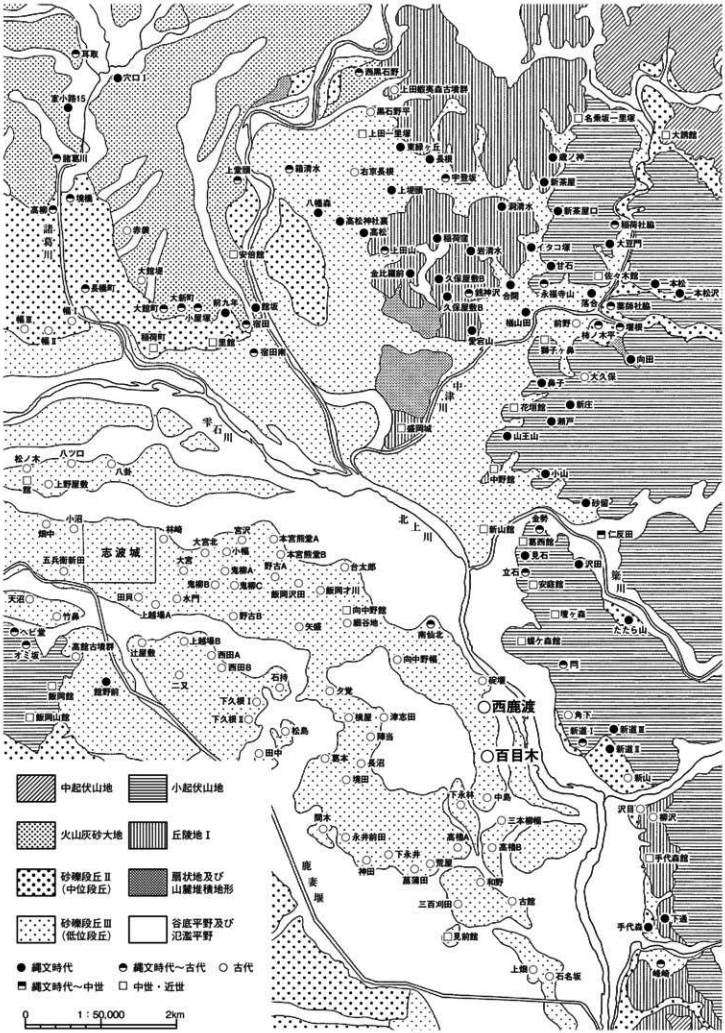
盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山（標高2,038ｍ）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地形・地質に大きく影響を及ぼしている。

北上山地　北上山地は日本列島の中でも形成年代の古い地層が分布する地帯であり、古生代や中生代の堆積岩及び火成岩からなる。これまで、北上山地の地質を南北に区分する境界断層帯は「早池峰構造体」と呼ばれていたが、近年の研究によって地帯区分の整理が進み、現在、北上山地の地質はその構造史より、北部北上帯、南部北上帯とその間に分布する根田茂帯の大きく三つに分けられる。盛岡市東部は、根田茂帯の西縁にあたる。これらの山地縁辺には、中津川・簗川などの北上川水系の河川やその支流により浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達している。

盛岡市北東部を流れる中津川は、その最大支流である米内川と盛岡市浅岸付近で合流して水量を増し、市街地を西流して北上川と合流する。

簗川は盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる岩神山（標高1,103ｍ）の西斜面より流れ、最大支流である根田茂川と盛岡市水沢付近で合流し、閉伊街道（宮古街道）に沿って蛇行しながら、盛岡市東安庭付近で北上川と合流する。その流れは丘陵地や高位段丘面を開析して流域沿いに中・小規模な低位段丘を形成する。

奥羽山脈　奥羽山脈は北上山地に比べると比較的新しい新第三紀からなる非火山地域と、第四紀に形成された新規火山地域に区別される。岩手山はこの新規火山地域に含められる。雫石川は奥羽山脈より東流し、雫石盆地を形成する。その流れは烏沼山と箱ヶ森に挟まれた盛岡市北の浦付近において急激に流路が狭められ、その狭窄部を抜けて北上平野に流れ込む。雫石川北岸および南岸ではその地質が大きく異なり、雫石川北岸には、岩手山起源の大石渡岩屑なだれ堆積物を基盤とした火山灰砂台地（滝沢台地）が広がっている。その範囲は滝沢市北部から盛岡市北部まで広範囲に



第１図　地形分類と周辺の遺跡分布

及んでいる。

雫石川南岸には、雫石川の流路転換によって運ばれた土砂で形成された沖積段丘が広がっている。雫石川は、これまでに何度も流路を変えており、雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。この沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上層に水成シルト、さらに表土が覆っている。このシルト層は旧河道などの低地形ばかりではなく、微高地上にも堆積している。これは沖積段丘が、河道の定まらない雫石川の下刻が周辺山地からもたらされる砂礫やシルトによって形成され、何度も堆積が繰り返されたことによるものである。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、大きなものは4条、その他にも網目状に細かな旧河道が沖積段丘に広がっている。現在は圃場整備や宅地造成が進み、旧地形を留めているところは少なくなってきているが、航空写真などを見ると旧河道の流路が残された水田や古い住宅街の区割り等で確認できるところもある。

3　歴史的環境

旧石器時代　旧石器時代の遺跡は、市街地から北東へ約 20km の薮川字外山に小石川遺跡が所在する。山間部の小河川に臨む台地上にあり、旧石器時代終末期の珪岩製尖頭器や黒曜石製の石核、剥片などが多数出土している。また、岩洞湖を隔てた対岸には細石刃と細石刃核が採集された大橋遺跡が位置する。

縄文時代　滝沢台地上に立地する大新町遺跡・大館町遺跡・安倍館遺跡からは、縄文時代草創期の「爪形文土器」が出土している。滝沢台地上には後続する縄文時代早期の遺跡が数多く存在し、前述の３遺跡以外にも大館堤遺跡・館坂遺跡・前九年遺跡・宿田遺跡などで縄文時代早期初頭～末葉の土器が出土している。

縄文時代前期は日本列島全体で温暖化が進み、遺跡数が増加し大規模な集落が出現する時期である。しかし、盛岡周辺に限っては北上山地内に散見するのみで遺跡の数は少なく、上八木田Ⅰ遺跡・畑遺跡などで確認されている程度である。これは、約 6,000 年前に起こった岩手山の山体崩壊による自然災害の影響が関連していると考えられている。

縄文時代中期になると遺跡数は爆発的に増加し、雫石川南岸の沖積平野を除く広い地域に分布する。繋Ⅴ遺跡・大館町遺跡・柿ノ木平遺跡・川目Ｃ遺跡・湯沢遺跡など、主要河川の流域や山麓の扇状地状の地形などに大規模な拠点集落が営まれるようになる。

縄文時代後期から晩期には、集落の規模は小さくなり、遺跡数も減少する。柿ノ木平遺跡や大葛遺跡では後期初頭の集落、葊内遺跡や湯壺遺跡では後期から晩期の集落が確認されている。また、宇登Ⅰ遺跡・上平遺跡では晩期の埋設土器や遺物包含層、手代森遺跡では晩期の集落と遺物包含層が確認されている。

弥生～古墳　弥生時代の遺跡数は少ないが、繋Ⅵ遺跡では前期の竪穴建物跡と中期の再葬墓が確認されており、浅岸地区の向田遺跡、堰根遺跡では、前期（砂沢式期）や後期（赤穴式期）の土器を伴う竪穴建物跡が確認されている。

古墳時代の集落遺跡は現在のところ確認されていないが、永福寺山遺跡や薬師社脇遺跡で４～５世紀の北海道系の形態をもつ土坑墓群が確認されている。永福寺山遺跡では後北Ｃ２－Ｄ式土

器と4世紀の土師器が共伴し、薬師社脇遺跡では、5世紀の土師器壺、甕、鉢、鉄鏃等の鉄器、管玉等の玉類が埋納されていた。

古　代　古墳時代終末から奈良時代にかけて、雫石川南岸等沖積面の遺跡が飛躍的に増加する。7世紀前半の遺構・遺物は少ないが、竹鼻遺跡で確認されている。7世紀中ごろには上田蝦夷森古墳群、8世紀代には太田蝦夷森古墳群、高館古墳群などの終末期古墳が築造され、野古A遺跡、台太郎遺跡、百目木遺跡などで安定した集落が形成される。

平安時代になると、803年に陸奥国最北端の城柵志波城が造営された。志波城は陸奥北部地域の経営拠点であると同時に、北方地域との結節点でもあったが、雫石川の度重なる氾濫被害などを理由に、812年頃には徳丹城（矢巾町）へ規模を縮小して移転している。その後9世紀中ごろより、陸奥北部の経営体制は鎮守府胆沢城に集約されていく。志波城東側の林崎遺跡、大宮北遺跡、小幅遺跡では、集落の中に官衙的な建物群が存在している。同様の建物跡は堰根遺跡でも確認されており、在地の有力者が律令体制を背景に台頭する様子がうかがえる。この時期の集落は沖積面だけではなく、上猪去遺跡・猪去館遺跡・新道Ⅱ遺跡など、山麓台地や丘陵の斜面部にも拡がりをみせる。

10世紀後半から12世紀までの遺跡は少ないが、大新町遺跡や小屋塚遺跡では、11世紀前半頃の掘立柱建物や竪穴跡と土器が出土している。また、境橋遺跡や宿田遺跡、上堂頭遺跡でも11世紀前半の遺構遺物が確認されている。赤渋遺跡では土器生産工房跡が確認され、竪穴建物跡の窪みを利用した土器焼成土坑からは、数千点に及ぶ11世紀中葉の土器が出土している。これらは儀礼行為に供されたものとみられ、安倍氏の拠点である厨川柵・嫗戸柵が近くに存在することを裏付けるような調査成果が上がっている。

12世紀の村落や屋敷、居館の遺構は、落合遺跡・堰根遺跡・稲荷町遺跡などで確認されている。また、奥州藤原氏の影響下にあったとされる宗教遺跡も多数存在する。12世紀以降、街道筋や山頂などに経塚が築かれるようになり、内村遺跡では経塚に埋納したとみられる常滑窯産の大甕が出土しているほか、湯壺経塚からは常滑の三筋文壺、一本松経塚からは渥美窯産の壺が発見されている。大宮遺跡では、大溝から12世紀末～13世紀初頭のかわらけが大量に廃棄された状況で出土しており、在地勢力拠点が営まれていた可能性がある。

中　世　鎌倉時代から室町時代については、台太郎遺跡で不整五角形の堀を巡らす居館や村落跡、墓域等が確認されている。向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、在地領主の居館跡と考えられる掘立柱建物や堀跡が確認されている。戦国期の盛岡周辺は、南部氏、斯波氏などの衝突が激しかった地域であるが、市内に数多く分布する城館跡の多くは、室町時代から戦国時代のものと考えられている。これらの城館跡は丘陵や山頂など見晴らしの良い場所だけでなく、平野部の微高地などにも多数築かれている。現在の盛岡城の場所には南部氏の家臣であった福士氏が築いた北館（慶善館）、南館（浜路館）からなる不来方城が存在した。

近　世　現在の城下の町並みの形成は、その南部氏の盛岡城築城から始まる。九戸合戦終結後の天正19年（1591）、南部信直は帰還する豊臣軍の軍監浅野長政から不来方城において、この不来方の地に新城を築くよう、積極的に奨められている（『祐清私記』）。その後、慶長2年（1597）から盛岡城の築城は始まり、寛永10年（1633）に一応の完成をみる。石垣補修の発掘調査などにより、盛岡城はその後1～5期の変遷を経て現在に至っていることが分かっている。

Ⅱ　西鹿渡遺跡（第 39 次調査）

1　遺跡の環境

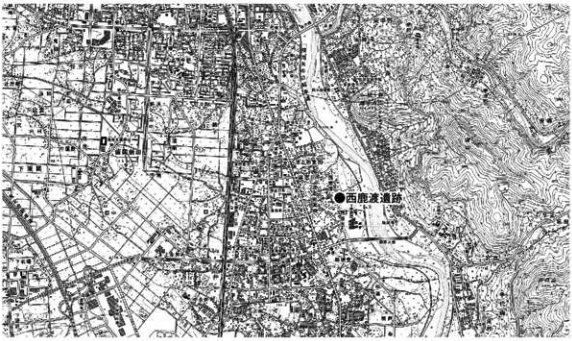
（1）　遺跡の概要

遺跡の位置　西鹿渡遺跡は、ＪＲ盛岡駅から南東に約 4.5km の三本柳２地割地内に所在する（第２図）。遺跡範囲は東西約 350 m、南北約 600 m を測る。かつては畑や果樹園などが多く見られたが、現在は宅地化が著しい場所である。

地形・地質　本遺跡の東を南流する北上川と本遺跡の北東約 3.5km 地点で合流する雫石川は、これまでに幾度となく流路を変えており、北上川西岸と雫石川南岸には細かい旧河道が網目状に確認されている。本遺跡はその旧河道によって画された低位沖積段丘上に立地している（第１図）。

（2）　歴史的環境

周辺の遺跡　本遺跡の北には碇堰遺跡、南には百目木遺跡・下永林遺跡・三本柳幅遺跡・高櫓Ａ遺跡などが立地している。百目木遺跡では、大型商業施設建設に伴い旧都南村教育委員会が行った調査で、８世紀後半及び９世紀後半を中心とした竪穴建物跡が 80 棟あまり確認され、墨書土器や鉄製農耕具、鞭痕のついた土器などが出土している。下永林遺跡は、昭和 10 年に蕨手刀が出土したとして「大道西古墳」とも呼称されるが、平成 28 年度から盛岡市の土地区画整理事業に伴う発掘調査が継続的に実施されており、８世紀後葉から９世紀前葉の円形周溝墓（末期古墳）が 30 基以上確認され、周辺集落の有力者を埋葬した墓域だったのではないかと考えられている。また、高櫓Ａ遺跡では８世紀後半から末頃を主体とした竪穴建物跡が 30 棟あまり確認されている。



第２図　西鹿渡遺跡の位置（1：50,000）

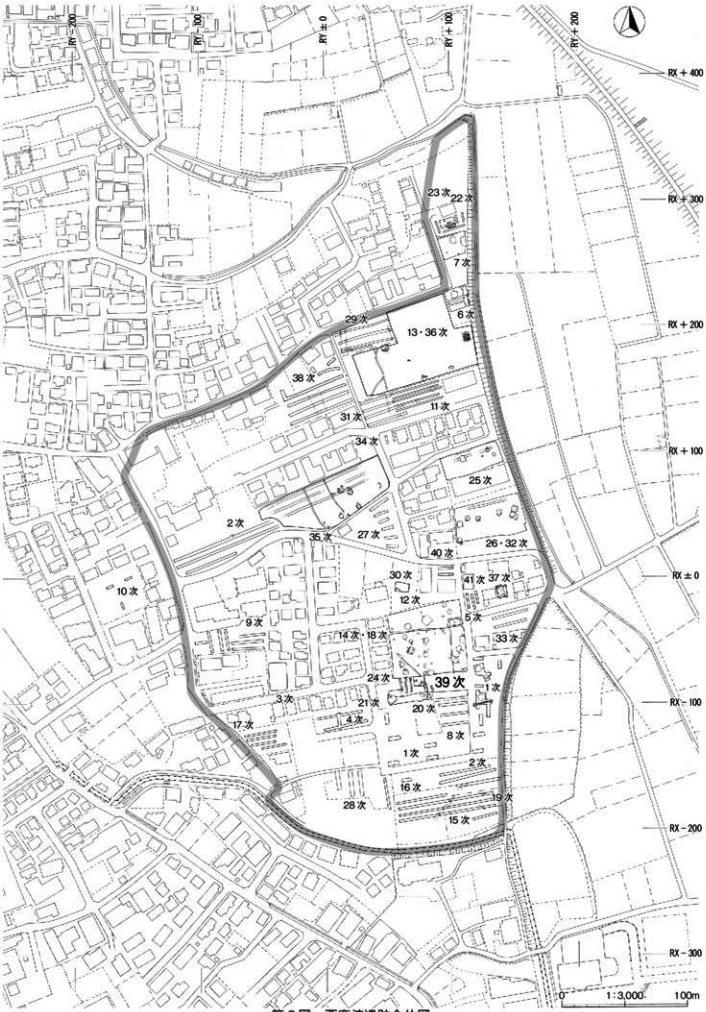
2　調査内容

（1）　これまでの調査

本遺跡は、昭和 55 年の旧都南村教育委員会が実施した宅地造成に伴う調査（第 1 次調査）以降、宅地造成、個人住宅の建築、共同住宅の建築などに伴い、令和 4 年度まで 41 次にわたる調査が行われている（第 2 表）。耕作等により大きく撹乱され遺構や遺物が確認できない地点もあるが、奈良・平安時代の竪穴建物跡や溝跡、土坑などが確認されている。遺物は 8 世紀半ばから 9 世紀後半と考えられる奈良･平安時代の須恵器、あかやき土器、土師器、鉄製品などが出土している。

次数	所在地	調査原因	面積（㎡）	期間	検出遺構・遺物
1	三本柳２地割地内	宅地造成	1,000	1980.07.20-08.14	奈良・平安竪穴建物跡２、時期不詳溝跡１
2 試掘	三本柳２地割 28-1、2	宅地造成	652	1993.08.18-08.19	平安竪穴建物跡 12、土坑 4、古代以降溝跡１
3 試掘	三本柳２地割地内	宅地造成	100	1993.06.16	遺構・遺物なし
4 試掘	三本柳２地割地内	宅地造成	172	1993.12.20	遺構・遺物なし
5	三本柳２地割 36-2	防火水槽建設	62	1994.09.01-09.03	奈良竪穴建物跡１、土坑２
6	三本柳２地割 22-7	個人住宅建築	291	1995.07.04-07.11	奈良竪穴建物跡１、土坑１、時期不詳溝跡１
7	三本柳２地割 16-6	個人住宅建築	393	1995.08.18-09.05	縄文土坑１、奈良竪穴建物跡２、土坑１
8 試掘	三本柳２地割 39-1	共同住宅建築	54	1997.11.11	遺構・遺物なし
9 試掘	三本柳２地割 47-5	共同住宅建築	268	1997.11.28	遺構・遺物なし
10 試掘	三本柳２地割 47-6	共同住宅建築	269	1998.02.12	遺構・遺物なし
11 試掘	三本柳２地割地内	共同住宅建築	196	1998.08.17	平安竪穴建物跡２
12	三本柳２地割地内	宅地造成	970	2002.10.01-12.02	奈良竪穴建物跡５、土坑３、近代溝跡１、土坑１
13 試掘	三本柳２地割 25-1	共同住宅建築	820	2002.07.23-07.25	奈良竪穴建物跡５、時期不詳溝跡３
14 試掘	三本柳２地割地内	宅地造成	555	2002.07.29-07.31	奈良竪穴建物跡 13、時期不詳溝跡１
15 試掘	三本柳２地割地内	宅地造成・共同住宅建築	501	2002.11.25-11.28	平安土坑２、溝跡４
16 試掘	三本柳２地割 39-43	共同住宅建築に伴う擁壁設置	68	2003.04.16	遺構・遺物なし
17 試掘	三本柳２地割 42-1	共同住宅建築	146	2003.04.16	遺構・遺物なし
18	三本柳２地割 36-1 ～ 4	宅地造成	2,226	2003.06.02-08.02	奈良竪穴建物跡 13、平安竪穴建物跡４、古代土坑 17、古代以降溝跡５、時期不詳溝跡３
19	三本柳２地割地内	擁壁設置	102	2006.04.13-04.15	時期不詳溝跡２
20	三本柳２地割 49-50 ～ 66	下水道・進入路	320	2006.07.31-08.11	奈良竪穴建物跡２、竪穴跡１
21	三本柳２地割 49-50 ～ 66	個人住宅改築	62	2007.04.16-04.27	奈良竪穴建物跡１
22 試掘	三本柳２地割 16-35	個人住宅建築	77	2009.03.18	奈良竪穴建物跡３、土坑１
23	三本柳２地割 16-35	個人住宅建築	80	2009.06.01-06.12	奈良竪穴跡１、土坑３
24 試掘	三本柳２地割 39-64	個人住宅建築	43	2009.10.07	遺構・遺物なし
25 試掘	三本柳２地割 32-1	福祉施設建築	282	2009.12.25	奈良竪穴建物跡２
26 試掘	三本柳２地割 33-2、3	宅地造成	367	2010.04.23	奈良竪穴建物跡４
27 試掘	三本柳２地割 31-1、2　外	宅地造成	127	2012.06.15	遺構・遺物なし
28 試掘	三本柳２地割 42-1	宅地造成	165	2013.05.09	遺構・遺物なし
29 試掘	三本柳２地割 22-4 ～ 6	宅地造成	154	2014.04.30	遺構・遺物なし
30	三本柳２地割 35-17	個人住宅建築	73	2016.04.27-05.24	奈良竪穴建物跡１
31 試掘	三本柳２地割 26-3　外	宅地造成	240	2017.04.11	古代竪穴建物跡１、古代以降溝跡１
32	三本柳２地割 33-2	宅地造成	1,624	2017.05.15-07.28	奈良竪穴建物跡６、平安竪穴建物跡２
33 試掘	三本柳２地割 37-2	共同住宅	104	2017.10.11	遺構・遺物なし
34 試掘	三本柳２地割 29-2　外	個人住宅	20	2017.11.21	遺構なし
35	三本柳２地割 28-1	宅地造成	3,032	2018.04.09-07.17	奈良・平安竪穴建物跡５、竪穴跡１、古代以降土坑４、溝跡２
36	三本柳２地割 22-3　外	宅地造成	4,552	2019.04.17-07.11	奈良竪穴建物跡１、古代以降土坑２、溝跡１
37	三本柳２地割 37-9	個人住宅	66	2019.05.31-07.02	奈良竪穴建物跡１、土坑６
38 試掘	三本柳２地割 23-1　外	宅地造成	476	2020.05.12-05.13	遺構なし、土師器片
39	三本柳２地割 39-64　外	個人住宅	84	2020.08.18-09.04	奈良竪穴建物跡１、土坑１、古代以降土坑１
40 試掘	三本柳２地割 35-5、8	個人住宅	35	2020.08.24	遺構なし
41 試掘	三本柳２地割 37-10	個人住宅	50	2022.03.28	遺構・遺物なし

第２表　西鹿渡遺跡調査一覧



第３図　西鹿渡遺跡全体図

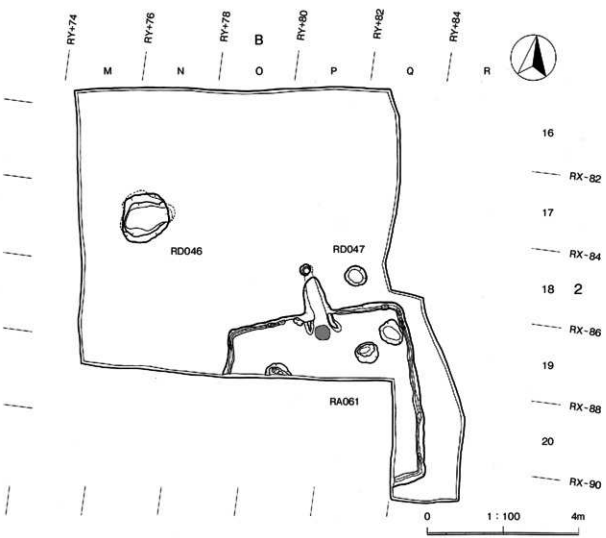
（2） 令和２年度の調査

位　　置　第 39 次調査区は西鹿渡遺跡の中央部の南よりに位置し、平成 15 年度に行われた第 18 次調査区と、平成 18 年に行われた第 20 次調査区の間にあたる（第３図）。第 18 次調査区や第 20 次調査区の周辺は、本遺跡の中でも古代の竪穴建物跡が多く確認されている区域である。本調査では、事前の試掘調査で遺構が確認されたため、建物建築予定部分に関してのみ調査を行った。調査区内はほぼ平坦で、検出面の標高値は 115.300 m前後である。

基本層序　調査区内で確認された基本層序はⅠ～Ⅲ層に大別される。Ⅰ層は表土である。Ⅱ層は暗褐色土層でその上面が遺構検出面であるが、耕作による攪乱が著しく、殆ど残存していない。Ⅲ層は褐色シルト層（地山）で、調査区内のほぼ全面で確認している。

検出状況　Ⅰ層を除去した後、Ⅱ・Ⅲ層上面で遺構の検出を行った。検出面までの深さは現地表面から 0.40 m～0.60 mである。

検出遺構　検出された遺構は奈良時代の竪穴建物跡１棟（ＲＡ 061）、土坑１基（ＲＤ 046）、古代以降の土坑１基（ＲＤ 047）である（第４図）。



第４図　西鹿渡遺跡第 39 次調査全体図

遺構・遺物

ＲＡ０６１竪穴建物跡（第５・６図）

位　　置　調査区南東側（Ｂ２－Ｐ・Ｑ１９区）　**平 面 形**　方形（調査区外）

規　　模　北西－南東4.88ｍ　南西－北東5.02ｍ　**主軸方向**　Ｎ23°Ｗ

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面　**時　　期**　８世紀中葉

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｅ層に大別され、Ａ、Ｂ、Ｄ層はさらに３層に細分される。

Ａ$_1$層－黒色土を主体とし、粉～小粒状の褐色土を微量に含む。

Ａ$_2$層－黒色土を主体とし、小粒～小塊状の褐色土を微量に含む。

Ａ$_3$層－黒色土を主体とし、小粒～小塊状の褐色土を微量、径３～６cm程の礫を少量含む。

Ｂ$_1$層－黒褐色土を主体とし、小粒～小塊状の褐色土を少量含む。

Ｂ$_2$層－黒褐色土を主体とし、塊～層状の暗褐色土を含み、やや軟らかい。

Ｂ$_3$層－黒褐色土を主体とし、小粒～小塊状の褐色土を少量、小塊～大塊状の黒色土を微量、赤褐色の焼土粒を少量含む。やや硬くやや締まる。

Ｃ層－黒色土を主体とし、小塊状の褐色土、赤褐色の焼土粒を微量含み、やや硬くやや締まる。

Ｄ$_1$層－黒褐色土を主体とし、粉～小塊状の褐色土を少量、黒色土を微量含み、やや締る。

Ｄ$_2$層－黒褐色土を主体とし、粉～大塊状の褐色土を多量、粉～小塊状の黒色土を微量含み、暗赤褐色の焼土粒を少量含む。

Ｄ$_3$層－黒褐色土を主体とし、粉～大塊状の褐色土、粉～小塊状の黒色土を小量含みやや締る。

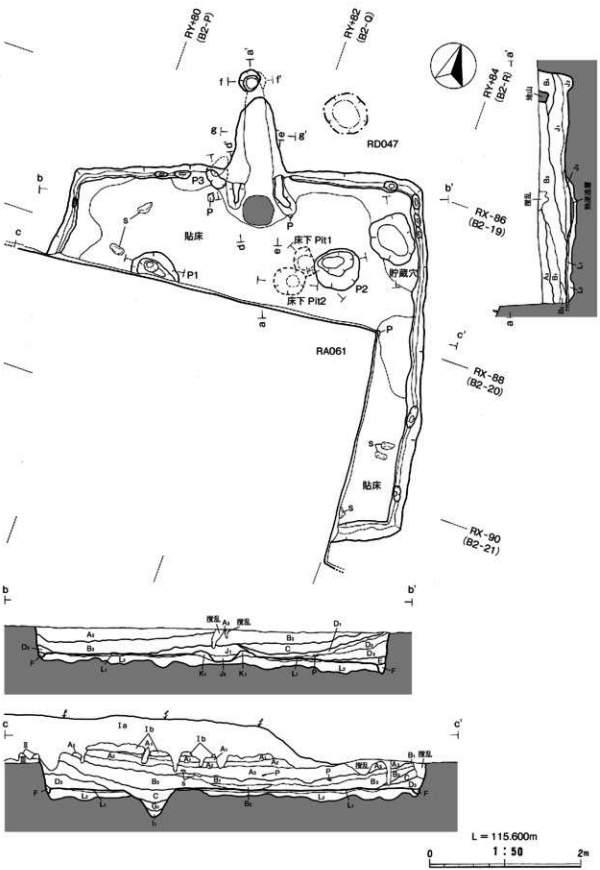
Ｅ層－黒褐色土を主体とし、小粒～小塊状の褐色土を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.35～0.50ｍで、外傾して立ち上がる。壁際には幅0.16～0.24ｍ、床面からの深さ0.05～0.08ｍの周溝が確認されている。底面には杭を打ち込んだような穴が数か所見受けられる。埋土はＦ層で、小粒状の褐色土を少量含む黒褐色土である。

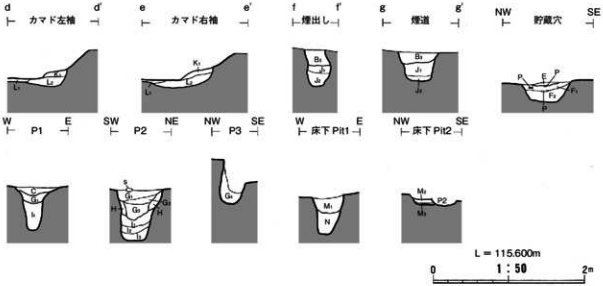
床の状態　ほぼ平坦で構築土（Ｌ層）は黒褐色土を多く含む暗褐色土を主体とし、塊状の褐色土を含み硬く締まる。床面の広範囲で貼床（Ｌ$_1$層）を確認しており、粘性の高いにぶい黄褐色土で非常に硬く締まる。構築土の層厚は0.08～0.16ｍ程で、そのうち貼床の厚さは0.02～0.04ｍである。

カ マ ド　カマドは北西壁のほぼ中央に位置する。煙道は刳り貫きのトンネル状とみられるが、天井部は一部が残存しているのみで、殆ど崩落している。煙道の平面形は溝状で、煙出しに向かって徐々に深くなり、煙出し部分で一段下がり最も深くなる。規模は北西壁から煙出し先端までの長さ1.35m、下端幅0.23～0.35m、検出面からの深さ0.34～0.47mである。火床面は径0.42mの不整円形で、熱浸透層は厚さ0.04mである。カマド基底部は暗褐色土を含む褐色シルト（Ｋ層）で構築している。規模は西残存部が長さ0.36m、幅0.23m、高さ0.09m。東残存部が長さ0.55m、幅0.20m、高さ0.06mである。カマドは人為的に壊されているとみられる。カマド崩壊土（Ｊ層）は３層に細分される。Ｊ$_1$層は黒褐色土を主体とし、小粒～小粒状の褐色土を小量、黒色土を微量、褐色～明褐色の焼土粒を少量含み、やや硬くやや締まる。Ｊ$_2$層は小粒状の暗褐色土を微量に含む黒褐色土で、Ｊ$_3$層は明赤褐色～赤褐色の焼土粒を多量に含む黒褐色土である。

貯 蔵 穴　北東隅に構築される。埋土（Ｆ層）は褐色土を主体とし、小粒～小塊状の黒褐色土を少量含む。Ｆ$_1$層は黒色土を含む割合が多く、焼土粒を多量含む。平面形は不整楕円形で、規模は0.54~0.66ｍ、床面からの深さ0.24mである。



第５図　RA061 竪穴建物跡（１）

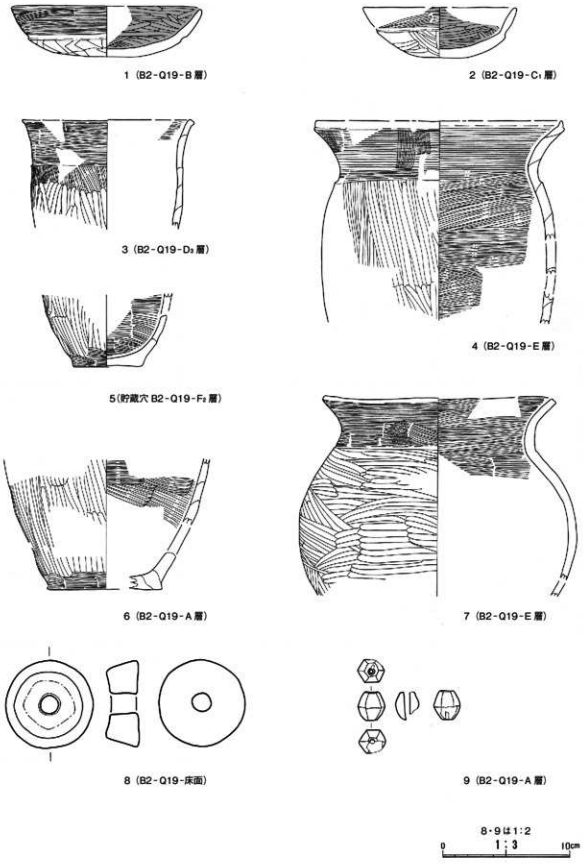


第６図　RA061 竪穴建物跡（２）

柱　穴　床面に２口検出している。いずれも主柱穴とみられるが、柱痕跡は認められない。埋土はＧ～Ｉ層に大別される。Ｇ層は黒褐色土を主体とし、G_1 層は小粒～塊状の褐色土を多く含み、G_3 層はさらに多く含む。Ｈ層は褐色土を主体とし、小粒状の黒褐色土を微量含み、やや締まりがある。Ｉ層は褐色土を主体とし、I_1 層は小粒状の黒色土を微量、I_3 層は少量含み、I_2 層は I_3 層よりもやや多く含む。各ピットの規模・深さは、Ｐ１－径 0.64 m、深さ 0.56 m、Ｐ２－径 0.57 ～ 0.60 m、深さ 0.66 m、である。さらにカマド左袖隣に１口（Ｐ３）検出しているが、柱痕跡は認められない。規模は、径 0.30 m、深さ 0.30 mである。その他、床構築土を精査中に床面下からピット２口を確認した。埋土（Ｍ層）は褐色土を主体とし、M_1 層は小粒～大粒状の暗褐色土を含む割合が多い。また、M_2 層は焼土粒を多く含み、M_3 層はやや締まりがある。各床下ピットの規模は、１－径 0.38 m、深さ 0.12 m、２－径 0.35 ～ 0.42 m、深さ 0.38 mである。

出土遺物（第７図）

１・２はいずれも非ロクロ整形の土師器坏である。１・２ともに丸底で体部に段を持つ。１は体部外面にヘラナデ、底部にヘラケズリを施し、内面に黒色処理とヘラミガキを施す。２は外面が磨滅しているが、体部にヘラナデ、底部にミガキ調整が見られ、内面に黒色処理とヘラミガキを施す。３～６は土師器甕である。３・４は口縁部から体部、５・６は体部から底部のみ残存する。３は口縁部に最大径を持ち、頸部に段を持つ。口縁部はヨコナデ、体部外面はハケメ調整の後ヘラミガキを施す。内面は磨滅している。４は口唇部及び頸部に段を持つ。口縁部外面はハケメ調整の後ヨコナデを施し、体部外面はミガキ調整を施す。内面は口縁部にヨコナデ、体部にハケメ調整を施す。５は体部外面にヘラミガキ調整と体部外面最下部及び内面にヘラナデを施す。底面には木葉痕が残る。６は体部外面にヘラミガキ、体部内面にハケメ調整を施す。７は球胴甕である。口縁部外面はハケメ調整の後ヨコナデを施し、体部外面にヘラミガキ調整を施す。８は土製紡錘車である。断面は中央部がやや窪む台形で、中央部分に穿孔が施される。磨滅が著しい。９は水晶製の切子玉である。一部を欠損しているが、欠損部分に磨滅が見られる。その他、図示していないが、土師器坏や土師器甕の破片などが多く出土している。



第7図　RA061 竪穴建物跡出土遺物

ＲＤ０４６土坑（第８図）

位　　置　調査区西側（Ｂ２－Ｎ１８区）　**平面形**　楕円形

規　　模　長軸－上端1.33 m、下端1.26 m、短軸－上端1.22 m、下端0.65 m

重複関係　なし　**堀込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面　**時　　期**　８世紀中葉

埋　　土　人為堆積でＡ～Ｊ層に大別され、Ｃ・Ｄ層は２層、Ｅ層は３層に細分される。

Ａ層－黒色土を主体とし、粉～大塊状の暗褐色土を多量含む。暗赤褐色の焼土粒を多く含み、やや硬くやや締まりがある。

Ｂ層－黒色土を主体とし、粉～小粒状の暗褐色土を微量含む。

Ｃ$_1$層－暗褐色土を主体とし、粉～小塊状の褐色土を小量含む。褐色の焼土粒を微量含み、やや硬くやや締まりがある。

Ｃ$_2$層－暗褐色土を主体とし、粉～小塊状の褐色土を小量含む。褐色の焼土粒と炭化物を含み、やや硬くやや締まりがある。

Ｄ$_1$層－黒色土を主体とし、粉～塊状の黒褐色土を少量、粉～小粒状の褐色土を微量含む。焼土粒を微量含み、やや締まりがある。

Ｄ$_2$層－黒色土を主体とし、粉～塊状の黒褐色土を多量、粉～小粒状の褐色土を小量含む。炭化物を微量含み、やや締まりがある。

Ｅ$_1$層－黒褐色土を主体とし、粉～小塊状の黒色土を微量含む。暗赤褐色～明褐色の焼土粒と炭化物を多量に含む。

Ｅ$_2$層－黒褐色土を主体とし、粉状の黒色土と暗赤褐色～明褐色の焼土粒を微量含む。

Ｅ$_3$層－赤褐色土を多量に含む褐色土を主体とし、暗赤褐色～明褐色の焼土粒を多量含む。

Ｆ層－黒色土を主体とし、粉～小塊状の褐色土を多量、粉～小塊状の褐色土を小量含み、やや締まりがある。

Ｇ層－褐色土を主体とし、粉～小塊状の暗褐色土を含み、やや締まりがある。

Ｈ層－黒褐色土を主体とし、小粒～小塊状の褐色土を微量、褐色～明赤褐色の焼土粒と炭化物を多量含む。

Ｉ層－赤褐色焼土を主体とし、小粉～中塊状の褐色土を含む。褐色～明赤褐色の焼土粒を多量に含み、やや締まりがある。

Ｊ層－暗褐色土を主体とし、粉～大塊状の褐色土を多量、粉～中塊状の黒色土を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.50 m。上端と下端の間に一段中端が設けられ、北西・南西側で中端が上端に対してややオーバーハングし、北東側の下端には袋状ピットが掘り込まれる。

底の状態　下端の平面形状は不規則であるが、ほぼ平坦である。

出土遺物（第８図）

１～４はいずれも非ロクロ整形の土師器坏である。１は小型の坏で、体部から底部にかけての段は不明瞭だが、体部外面はヘラミガキ、底部はヘラケズリを施す。内面は黒色処理とヘラミガキを施す。底部に穿孔が見られる。２～４は丸底で体部に段を持つ。２は外面にヘラミガキ、内面に黒色処理とヘラケズリを施す。３・４は体部外面がヘラミガキ、底部外面はヘラケズリの後ヘラミガキを施し、内面は黒色処理とヘラミガキを施す。５は土師器甕である。口縁部から体部にかけてハケメ調整の後、口縁部にヨコナデ、体部にヘラミガキ調整を施す。その他、図示していないが、土師器坏や土師器甕の破片、自然礫などが出土している。

ＲＤ０４７土坑（第８図）

位　　置　調査区中央（Ｂ２－Ｑ１８区）　**平面形**　円形

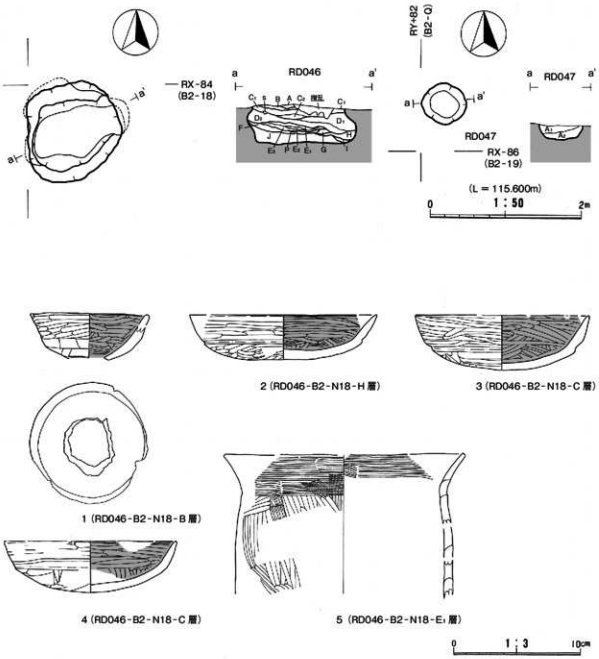
規　　模　上端 0.52 ～ 0.59 m、下端 0.30 ～ 0.40 m

重複関係　なし　**堀込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積で小粒～塊状の褐色土を含む黒褐色土を主体とし、A_2 層の方が褐色土を多く含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.16 m で外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。　**出土遺物**　なし　**時　期**　古代以降



第８図　RD046・RD047 土坑、RD046 土坑出土遺物

（3） 調査のまとめ

盛岡周辺においてカマドが北～西の方向に構築される竪穴建物跡は、おおむね８世紀代までのもの（2008　遺跡の学び館）であり、ＲＡ 061 竪穴建物跡もこれにあたると考えられる。これまでに本遺跡で確認されている竪穴建物跡は８世紀後半代を主体としており、この時期の遺物の特徴として、丸底から平丸底で体部に段もしくは稜を持つ非ロクロ整形の土師器坏があげられる。ＲＡ 061 竪穴建物跡からも、丸底の非ロクロ整形の土師器坏（第７図）が出土しており、その特徴から８世紀中葉の年代が考えられる。

埋土Ａ層から水晶製の切子玉が出土している。穿孔は一方向からのみで、工具の出口方向が欠損しているため、穿孔作業中に欠損し、廃棄されたものの可能性がある。欠損部分がやや磨滅しているが、欠損部を修正するための人為的なものか、埋没過程での磨滅かは判然としない。市内での切子玉の出土例は古墳や墓壙が殆どであり、また埋土上層からの出土であるため、この竪穴建物跡に直接関係する遺物というよりは、周囲からの流れ込みなどの可能性が高く、周辺に墓壙が存在する可能性が考えられる。

一方ＲＤ 046 土坑からは、底部が穿孔された小型の土師器坏が出土している。底部穿孔の土器は副葬品として墓に供えられることが多く、近隣の遺跡の調査でも土坑墓や円形周溝などから出土しているため、ＲＤ 046 土坑は墓壙の可能性がある。出土遺物の時期から周辺の竪穴建物跡と大きな時期差は認められない。また、ＲＡ 061 竪穴建物跡内の貯蔵穴付近と、ＲＤ 046 土坑のそれぞれから出土した土師器片同士が接合し、一個体の土師器坏（第８図３・４）となった「遺構間接合」（2019 盛岡市）が確認されたことから、これら２つの遺構同士には関連性があり、ほぼ同時期に廃絶・埋没したものと考えられる。当時の人々が何らかの意思を持って双方に遺物を廃棄または埋納した可能性がある。

土坑の長軸壁面に袋状ピットを設ける形状は、千歳市のウサクマイＡ遺跡や市内永福寺山遺跡など、北海道から北東北の古墳時代の墓壙に類似するため、このような形状の墓壙を作る風習が８世紀代まで存続していた可能性がある。また、居住域から墓壙と考えられる遺構が確認されたことから、本遺跡では居住域と墓域の使い分けをしていなかった可能性が考えられるが、いずれも当遺跡内での事例が少ないため推測の域を出ず、例外的なものであった可能性もあり、今後の調査事例の増加が待たれる。

＜引用・参考文献＞

ウサクマイ遺跡調査団　1995 『烏欄舞』

盛岡市教育委員会　1997 『永福寺山遺跡－昭和 40・41 年発掘調査報告書』

盛岡市教育委員会　2008 『盛岡市内遺跡群－平成 18・19 年度発掘調査報告書－』

盛岡市教育委員会　2011 『西鹿渡遺跡－第 25 次発掘調査報告書－』

盛岡市教育委員会　2011 『盛岡市内遺跡群－平成 20・21 年度発掘調査報告書－』

廣瀬忠夫　盛岡市教育委員会　2018 『西鹿渡遺跡－「M stage 三本柳」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

盛岡市教育委員会　2019 『西鹿渡遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

株式会社アーネストワン　盛岡市教育委員会　2020 『西鹿渡遺跡－第 36 次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

Ⅲ　百目木遺跡（第 38 次調査）

1　遺跡の環境

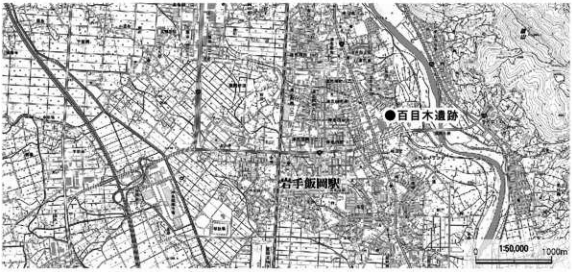
（1）　遺跡の概要

遺跡の位置　百目木遺跡は、JR 盛岡駅から南東に約 4 km の三本柳 5 地割百目木地内に所在する（第 9 図）。北上川西岸の低位段丘上に立地し、遺跡の範囲は東西約 320 m、南北約 670 m を測る。

地形・地質　標高は 115 m前後で、周囲の旧河道面との比高は 1 ～ 2 m程度となっている。かつては畑や果樹園などが多く見られていたが、現在は周辺地域の開発が急速に進行しており、遺跡の現況はほとんどが住宅地である。なお、当地区字名の「百目木（どめき）」は、本来「どうめき」や「どどめき」と川の水が急に流れる様子を形容した地名と言われている。

（2）　歴史的環境

周辺の遺跡　本遺跡の北には西鹿渡遺跡、南に下永林遺跡、南西に高櫓Ａ遺跡・荒屋遺跡など、古代の遺跡が低位段丘上に立地している。北に隣接する西鹿渡遺跡では近年、大規模宅地造成工事に伴う発掘調査が実施されており（盛岡市教育委員会ほか 2018・2019・2020）、奈良・平安時代の竪穴建物跡が計 16 棟発見されている。また、旧河道をはさんで南に隣接する下永林遺跡は、昭和 10 年に蕨手刀が出土したとして「大道西古墳」とも呼称されるが、平成 28 年度から盛岡市の土地区画整理事業に伴う発掘調査が継続的に実施されており、8 世紀後葉から 9 世紀前葉の円形周溝墓（末期古墳）が 30 基以上確認されている。さらに、高櫓Ａ遺跡・荒屋遺跡も、大規模宅地造成工事に伴う発掘調査が実施され、高櫓Ａ遺跡第 2 ・ 3 ・ 5 次調査では奈良・平安時代の竪穴建物跡が計 34 棟（盛岡市教育委員会ほか 2009）、荒屋遺跡第 5 次調査では奈良・平安時代の竪穴建物跡 12 棟などが発見されている（盛岡市教育委員会ほか 2021）。



第 9 図　百目木遺跡の位置（1：50,000）

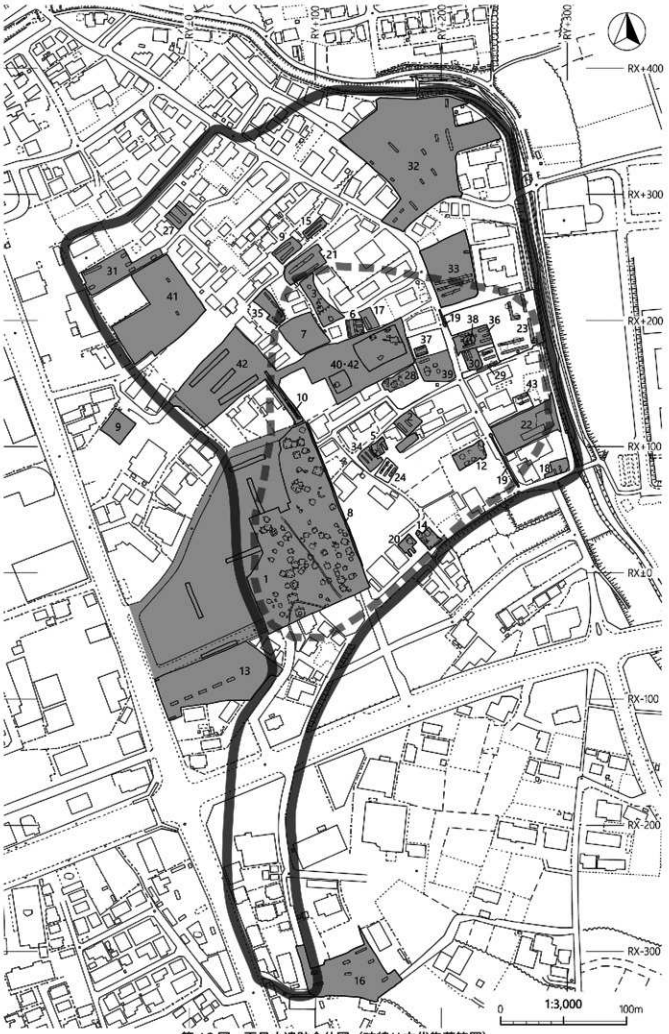
2　調査内容

（1）　これまでの調査

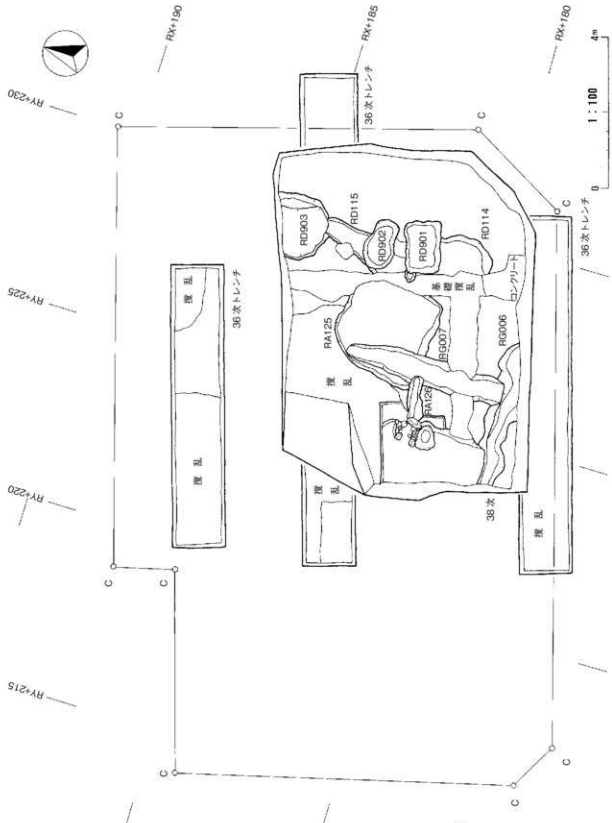
調査の経過　百目木遺跡は、昭和53年の旧都南村教育委員会による大型商業施設建設に伴う発掘調査以降、令和3年度までに43次にわたる試掘調査・本調査が実施され、奈良・平安時代の竪穴建物跡が120棟以上確認される大規模な古代集落であることが判明している（第3表）。

次数	所在地	調査原因	面積(㎡)	期間	検出遺構・遺物
1	三本柳5地割21ほか	大型商業施設建設	9,000	1978.03.10-10.12	奈良・平安竪穴建物跡80ほか(旧都南村教育委員会)
2試掘	三本柳5地割35-7	住宅新築	34	1993.09.08	遺構・遺物なし
3	三本柳5地割13-2	住宅新築	652	1994.09.22-10.12	奈良竪穴建物跡3、土坑5(H5・6年報)
4試掘	三本柳5地割2-1	店舗新築	399	1995.02.23	遺構・遺物なし
5	三本柳5地割35-9	住宅新築	119	1995.07.12-07.17	平安竪穴建物跡1、溝跡3
6試掘	三本柳5地割13-4	住宅新築	56	1995.12.07	遺構・遺物なし
7試掘	三本柳5地割6-1	住宅新築	100	1996.05.13	遺構・遺物なし
8	三本柳5地割57、60、61	下水道管敷設	200	1996.09.04-09.07	平安竪穴建物跡2、土坑1
9試掘	三本柳5地割14-8、15-6	住宅新築	43	1996.11.21	遺構・遺物なし
10	三本柳5地割6-1	下水道管敷設	56	1996.11.25-11.27	畝状遺構
11試掘	三本柳5地割35-8	住宅新築	150	1997.04.20	遺構・遺物なし
12	三本柳5地割35-8	住宅新築	288	1998.10.05-11.05	奈良竪穴建物跡1、平安竪穴建物跡7、近世以降掘立柱建物跡1、土坑3(H10国庫補助)
13試掘	三本柳5地割25-15	店舗新築	38	1999.01.26	遺構・遺物なし
14	三本柳5地割33-9	住宅新築	333	1999.07.26-08.30	奈良竪穴建物跡2、平安竪穴建物跡1、土坑2、焼土遺構1(H11国庫補助)
15試掘	三本柳4地割14	貸家新築	34	1999.08.05	遺構なし、平安土器破片
16試掘	三本柳7地割68-1ほか	宅地造成	70	2000.12.21	遺構・遺物なし
17試掘	三本柳5地割13-6	個人住宅建築	20	2001.12.19	遺構・遺物なし
18試掘	三本柳5地割37-2	店舗建築	12	2001.12.19	遺構・遺物なし
19	三本柳5地割地内	下水道管敷設	361	2002.05.20-05.30	平安竪穴建物跡5、ピット
20試掘	三本柳5地割33-10	長屋住宅建築	118	2002.06.17-07.05	平安竪穴建物跡1【遺構保存】
21試掘	三本柳5地割11-3ほか	共同住宅建築	78	2002.12.06	遺構・遺物なし
22試掘	三本柳5地割37-1ほか	宅地造成	146	2003.10.27	平安竪穴建物跡2、溝跡1
23試掘	三本柳5地割41-1ほか	長屋住宅建築	258	2005.03.31	平安竪穴建物跡5【遺構保存】
24試掘	三本柳5地割35-27	個人住宅建築	33	2005.07.08	古代竪穴建物跡1
(25)	(欠番)	-	-	-	-
(26)	(欠番)	-	-	-	-
27試掘	三本柳4地割17-9	宅地造成	47	2006.08.09	遺構・遺物なし
28	三本柳5地割16-1	集合住宅建築	255	2007.11.19-12.18	奈良竪穴建物跡2、土坑4、ピット29(H19館報)
29試掘	三本柳5地割49-9	個人住宅建築	57	2008.08.29	平安竪穴建物跡2、近世以降竪穴状遺構1【遺構保存】
30試掘	三本柳5地割41-8	個人住宅建築	18	2008.11.07	遺構・遺物なし
31試掘	三本柳4地割17-1の一部ほか	宅地造成	60	2010.05.17	遺構・遺物なし
32試掘	三本柳4地割4-1ほか	宅地造成	56	2010.12.02	遺構・遺物なし
33試掘	三本柳5地割44-3ほか	宅地造成・共同住宅建築	113	2012.03.15	遺構なし、平安土器破片
34試掘	三本柳5地割35-11	個人住宅建築	29	2012.08.01	遺構・遺物なし
35試掘	三本柳5地割8-1	長屋住宅建築	35	2017.08.04	遺構・遺物なし
36試掘	三本柳5地割41-2	個人住宅建築	99	2019.10.23	平安竪穴建物跡1【R2本調査・38次】
37試掘	三本柳5地割15-1	事務所建築	12	2020.07.08	遺構・遺物なし
38	三本柳5地割41-2	個人住宅建築	59	2020.10.13-10.27	平安竪穴建物跡2、古代土坑2・溝跡2(R2国庫補助)
39試掘	三本柳5地割15-2	個人住宅・倉庫建築	159	2020.10.27	奈良・平安竪穴建物跡3、古代遺構竪穴状遺構1【遺構保存】
40試掘	三本柳5地割14-1ほか	宅地造成	466	2020.11.12・13	奈良・平安竪穴建物跡4、土坑2【R3本調査・42次】
41試掘	三本柳4地割16-1	保育園建築	8	2021.04.27	遺構・遺物なし
42	三本柳5地割14-1ほか	宅地造成	1,502	2021.06.23-08.24	奈良・平安竪穴建物跡3、竪穴状遺構1、古代以降土坑3、溝跡1
43試掘	三本柳5地割40-18ほか	個人住宅建築	20	2021.10.06	平安竪穴建物跡1【遺構保存】

第3表　百目木遺跡調査一覧



第 10 図　百目木遺跡全体図（破線は古代集落範囲）



第 11 図　百目木遺跡第 36・38 次調査全体図

（2） 令和２年度の調査

位　　置　第38次調査区は、百目木遺跡の北部中央に位置し、南西に近接する平成19年度の第28次調査で奈良時代（８世紀前半）の竪穴建物跡２棟などが確認されている（盛岡市遺跡の学び館2009）。令和元年度の試掘調査（第36次）で遺構が検出された範囲を重機で掘り下げ、本調査を実施した。敷地面積188.31㎡のうち、本調査面積は58.5㎡。既存建物があった調査区内はほぼ平坦であり、検出面の標高は115.4ｍ前後である。

基本層序　調査区内で確認された基本層序はⅠ・Ⅱ層に大別される。Ⅰ層のうち、Ⅰａ層は表土で礫が混じる既存建物解体後の整地層、Ⅰｂ層は旧表土。Ⅱ層は褐色シルト（基盤土）であり、その上面が遺構検出面である。

検出状況　重機によりⅠ層を除去したⅡ層上面で遺構検出を行った。検出面までの深さは現地表面から0.3～0.4ｍであるが、既存建物撤去時の攪乱とともに、円礫の詰まった基礎下部やコンクリート土間の一部が取り残されていた。

検出遺構　検出された遺構は、平安時代の竪穴建物跡２棟（ＲＡ125・126）、古代の土坑２基（ＲＤ114・115）・溝跡２条（ＲＧ006・007）、近現代の土坑３基（ＲＤ901～903）である（第11図）。

遺構・遺物

ＲＡ１２５竪穴建物跡（第12・13図）

位　　置　調査区中央　　**重複関係**　ＲＡ126（新旧不明）、ＲＧ007（新）、ＲＤ901（新）

平 面 形　不整方形　　**規　　模**　東西2.5ｍ、南北2.5ｍ、検出面からの深さ0.16ｍ

カマド方向　Ｅ5.0°Ｓ、東カマド、長い煙道か（0.3ｍ以上、攪乱とRD901に削平されているが床面から一段高くなってから下がっていく形状か）

カ マ ド　両袖・焚口の焼土面とも残存せず

埋　　土　$A_{1・2}$層、B_1層、C_1層、L_1層（第４表）

床　　面　構築土（L_1層）あり　　**柱　　穴**　なし

出土遺物（第14図、第５表）　土師器甕・ロクロ内黒坏（１）、須恵器坏・壺、あかやき土器甕（５）・坏（２～４）・高台付坏が出土。時期は９世紀後葉と考えられる。

ＲＡ１２６竪穴建物跡（第12・13図）

位　　置　調査区西部　　**重複関係**　ＲＡ125（新旧不明）、ＲＧ006・007（新）

平 面 形　方形か（北辺は攪乱により削平、南半はＲＧ006と重複、西辺は調査区外）

規　　模　東西1.6ｍ以上、南北2.6ｍ以上、検出面からの深さ0.3ｍ

カマド方向　Ｅ5.0°Ｎ、東カマド、長い煙道（1.1ｍ、底面が床面から一段高くなり緩やかに上がってから水平となる、ピット状の煙出しとならない）

カ マ ド　大きな川原石を芯材とした両袖と天井（石組カマド）が残存、焚口の焼土面はなし。

埋　　土　$A_{1・2}$層、B_1層、C_1層、$D_{1・2}$層、$J_{1～4}$層、K_1層（第４表）

床　　面　構築土がなく礫層上面が床面、カマド右袖脇に貯蔵穴（Ｐ１）　**柱　　穴**　なし

出土遺物（第14・15図、第５・６表）　土師器甕・ロクロ内黒坏（６・７）・高台付坏台部、あかやき土器甕・坏（８～10）・高台付坏（11）が出土。時期は９世紀後葉と考えられる。カマドの袖石として 火山岩（軽石）の砥石（12）が転用されていた。

ＲＤ１１４土坑（第 12・13 図）

位　　置　調査区南東部　**重複関係**　ＲＤ 901・902（新）
平 面 形　不整長円形か　**規　　模**　長軸 2.0 m以上、短軸 0.6 m、検出面からの深さ 0.15 m
埋　　土　Ａ$_{1}$層（第４表）
出土遺物　土師器甕・ロクロ内黒坏、須恵器壺・大甕、あかやき土器坏の破片。時期は古代と考えられる。

ＲＤ１１５土坑（第 12・13 図）

位　　置　調査区北東部　**重複関係**　ＲＤ 902・903（新）
平 面 形　不整楕円形か　**規　　模**　長軸 1.4 m以上、短軸 1.1 m以上、検出面からの深さ 0.12 m
埋　　土　Ａ$_{1}$層（第４表）
出土遺物　土師器甕・ロクロ内黒坏、あかやき土器坏の破片。時期は古代と考えられる。

ＲＧ００６溝跡（第 12・13 図）

位　　置　調査区南西部　**重複関係**　ＲＡ 126（古）、ＲＧ 007（新旧なし）
規 模 等　検出面での幅 0.5 ～ 0.8 m、延長 4.0 m以上（調査区外）、深さ 0.2 m、東西に走る。
埋　　土　Ａ$_{1}$層、Ｂ$_{1}$・$_{2}$層、Ｃ$_{1}$層（第４表、ＲＧ 007 と共通）
出土遺物　土師器甕、あかやき土器坏の破片。時期は古代と考えられる。

ＲＧ００７溝跡（第 12・13 図）

位　　置　調査区西部　**重複関係**　ＲＡ 125・126（古）、ＲＧ 006（新旧なし）
規 模 等　検出面での幅 0.7 m、延長 4.3 m以上（調査区外）、深さ 0.2 m、南北に走る。
埋　　土　Ａ$_{1}$層、Ｂ$_{1}$・$_{2}$層、Ｃ$_{1}$層（第４表、ＲＧ 006 と共通）
出土遺物　土師器甕・ロクロ内黒坏、あかやき土器坏の破片。時期は古代と考えられる。

（３）　調査のまとめ

今回の調査で精査した遺構は、平安時代の竪穴建物跡２棟（ＲＡ 125・126）、古代と考えられる土坑２基（ＲＤ 114・115）・溝跡２条（ＲＧ 006・007）である。このほか調査区東部にＲＤ 901 ～ 903 土坑を確認しているが、埋土より古代の土師器・あかやき土器破片のほか、近世陶磁器・古銭、近現代陶磁器・ガラス瓶等が出土しており、近現代の室（むろ）、または廃棄土坑と考えられる。

竪穴建物跡　調査区中央のＲＡ 125 竪穴建物跡は、規模が東西 2.5 m・南北 2.5 mと一辺３m未満の小型住居であり、カマド方向は東カマド。撹乱等により煙道の状況が明確でなく、カマド袖も残存しない。出土土器で図化できたものは５点であるが、土師器ロクロ内黒坏に墨書がみられる（欠損があり文字は不明）。あかやき土器の坏と甕が主体をなすことから９世紀後葉の年代が考えられる。

調査区西部のＲＡ 126 竪穴建物跡は、撹乱や溝跡との重複で平面規模が判然としないが、一辺 3.3 m程度と推定され、中型住居（一辺３m以上・５m未満）と考えられる。カマド方向は東カマド、煙道は在地型の長いタイプであり、煙道底面は住居床面から一段高くなり緩やかに上がってから水平となる。カマドは芯材に大きな川原石を用いた石組カマドであり、やや崩れながら

天井石も残存していた。袖石の１点は火山岩（軽石）の砥石が転用されている。焚口の焼土面は検出されなかったが、カマド右袖脇に貯蔵穴と考えられる径 0.5 ～ 0.6 m の浅いピットがある。出土土器で図化できたものは６点。高台部が欠損しているものの、あかやき土器高台付坏が出土しており、あかやき土器坏の底部径も小型化していることから９世紀後葉の年代が考えられる。

集落の様相　百目木遺跡のこれまでの調査成果を見ると、遺跡範囲の中で、第１次調査区を南西端とする東西 280 m・南北 260 m の範囲が奈良・平安時代の集落域になっているようである。奈良・平安時代の竪穴建物跡を本調査で精査（下水道管敷設工事に伴うものを除く）しているのは、南西部が第１次（80 棟）、南半部が第５次（１棟）・第 12 次（８棟）・第 14 次（３棟）、北半部が第３次（３棟）・第 28 次（２棟）・第 38 次（２棟）の７地点、計 99 棟である（令和２年度末）。調査面積 100㎡あたりの竪穴建物棟数を試算してみると、南西部の第１次調査区（0.89 棟／ 100㎡）以上に、南半部（1.51 棟／ 100㎡）と北半部（1.54 棟／ 100㎡）の調査区の遺構密度が高い。現時点では第１次調査区以外は分散した小規模調査であることから予測でしかないが、北上川旧河道に近い集落の東側や南側ほど古代の竪穴建物数が多いとすれば、雫石川旧河道に面する集落の北側や東側に古代の竪穴建物数が多い盛南地区の古代集落（台太郎遺跡・細谷地遺跡など、盛岡市遺跡の学び館 2017）と類似した傾向（旧河道沿いへの竪穴建物の集中）があるのかもしれない。

＜引用・参考文献＞

都南村教育委員会 1979『百目木遺跡－発掘調査報告書－』

盛岡市遺跡の学び館 2009「盛岡市遺跡の学び館 平成 19 年度 館報」

盛岡市遺跡の学び館 2017「企画展「“志波城前夜”の蝦夷（エミシ）社会－９世紀初頭以前の盛南地区」図録」

盛岡市教育委員会 1999『盛岡市埋蔵文化財調査年報－平成５・６年度－』

盛岡市教育委員会 1999『盛岡遺跡群 平成 10 年度発掘調査概報』

盛岡市教育委員会 2000『盛岡市内遺跡群 平成 11 年度発掘調査概報』

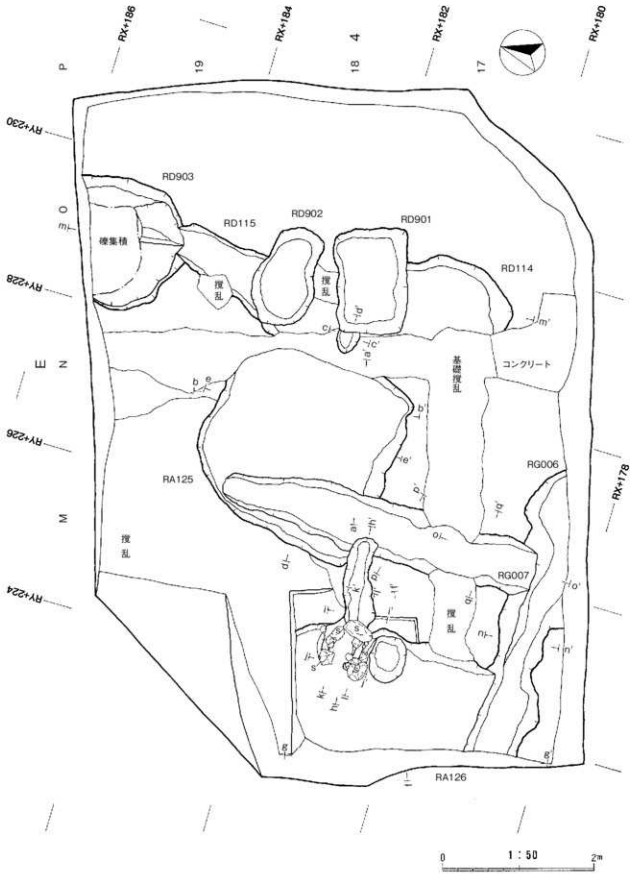
盛岡市教育委員会・宮城開発株式会社 2009『高橋Ａ遺跡－「パークスクエア都南中央」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

盛岡市教育委員会 2018『西鹿渡遺跡－「M Stage 三本柳」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

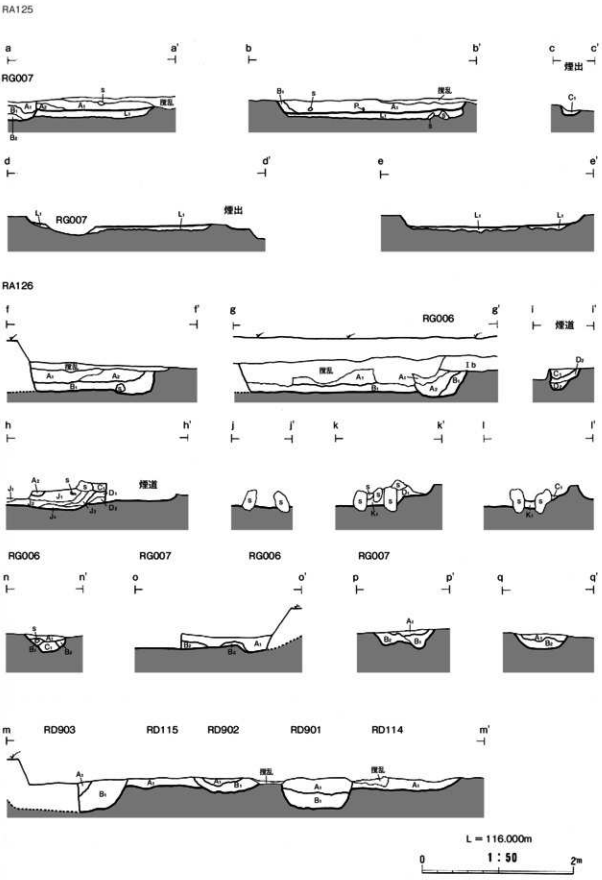
盛岡市教育委員会 2019『西鹿渡遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

盛岡市教育委員会・株式会社アーネストワン 2020『西鹿渡遺跡－第 36 次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－』

盛岡市教育委員会・有限会社タイキ 2021『荒屋遺跡－第５次調査 宅地造成に伴う発掘調査報告書－』



第12図　RA125・126竪穴建物跡、RD114・115土坑、RG006・007溝跡、RD901～903土坑（1）



第 13 図　RA125・126 竪穴建物跡、RD114・115 土坑、RG006・007 溝跡、RD901 ～ 903 土坑（2）

		土色（JIS）	土性（略号）	土色（JIS）	土性（略号）	状態	%			
RA125 整穴建物跡	A₁	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉～粒	5	中～硬	中～密	焼土粒混じる
	A₂	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	2	中～硬	中～密	
	B₁	10YR4/4褐色	SiL シルト質壌土	10YR2/3黒褐色	SiCL シルト質壌土	粉～粒	30	－	－	
	C₁	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	30	硬	密	褐色粘土
	L₁	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊	40	－	－	未構築土。礫混じる
RA126 整穴建物跡	A₁	10YR2/2黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	2	硬	密	
	A₂	10YR2/2黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	5	硬	密	
	B₁	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊	10	硬	密	焼土粒・炭化物混じる
	C₁	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊	50	硬	密	褐遺粘土
	D₁	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	30	中～硬	中～密	褐遺粘土
	D₂	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊	40	中～硬	中～密	褐遺粘土
	J₁	7.5YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	7.5YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粒	10	－	－	炭化物・焼土粒混じる。カマド崩壊土
	J₂	7.5YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	7.5YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	5	硬	密	炭化物・焼土粒混じる。カマド崩壊土
	J₃	7.5YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	10YR2/3黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉	40	硬	密	炭化物・焼土粒混じる。カマド崩壊土
	J₄	7.5YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒	5	硬	密	焼土・炭混じる。カマド天井崩落土か
RD114 土坑	A₁	10YR3/1黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉～粒	5	中～硬	中～密	
RD115 土坑	A₁	10YR3/1黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉～粒	5	－	－	小礫混じる
RX006・007 溝跡	A₁	10YR2/3黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	2	中～硬	中～密	
	B₁	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉	30	中～硬	中～密	
	B₂	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊	50	中～硬	中～密	
	C₁	10YR3/3暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6褐色	SiL シルト質壌土	粉	10	硬	密	

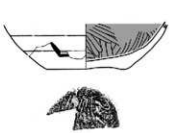
第４表　百目木遺跡第 38 次調査遺構土層観察表

				形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
図	番号	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	底／口径／器高	口径／器高		外面	内面	
14	1	RA125	22	土師器	坏	北東部	－	－	－	－	6.2	/	/	回転糸切無調整	ヘラミガキ＋黒色処理		墨書（イ不明）。粘土にウンモ混じる
	2	RA125	13	あかやき土器	坏	北西部	－	－	16.4	－	－	/	/	欠損			外面一部にコゲ状炭化物。灯明皿か
	3	RA125	12	あかやき土器	坏	北西部	－	－	14.2	－	－	/	/	欠損			粘土にウンモ混じる。焼けはじけ・剥落
	4	RA125	9	あかやき土器	坏	ベルト北側	－	－	－	－	5.1	/	/	回転糸切	体部下端ヘラナデ		
	5	RA125	1	あかやき土器	甕	ベルト北側	－	－	23.0	23.4	－	1.1	/	欠損	体部ヘラナデ	体部ヘラナデ	口縁部～体部上端外面の一部にコゲ状炭化物。体部外面にスス状炭化物
	6	RA126	4	土師器	坏	カマド左袖脇	床面	5.3	13.4	－	5.0	2.7	2.5	回転糸切無調整		ヘラミガキ＋黒色処理（見上げ）	粘土にウンモ混じる。内外面の一部にタール状炭化物
	7	RA126	5	土師器	坏	カマド左袖脇	床面	5.4	14.8	－	6.0	2.5	2.7	回転糸切無調整		摩滅・ヘラミガキか	粘土にウンモ混じる。外面一部にタール状炭化物
	8	RA126	3	あかやき土器	坏	カマド	床面	5.7	13.4	－	4.0	3.4	2.4	摩滅			粘土にウンモ混じる。内外面の一部にタール状炭化物
	9	RA126	12	あかやき土器	坏	北半部	床面	－	－	－	5.4	/	/	回転糸切無調整			粘土にウンモ混じる
	10	RA126	2	あかやき土器	坏	カマド右袖	－	4.3	13.0	－	4.7	2.8	3.0	回転糸切無調整			粘土にウンモ混じる。内外面の一部にタール状炭化物。底部付近が剥落。灯明皿か
	11	RA126	6	あかやき土器	高台付坏	カマド左袖脇	床面	－	15.6	－	－	/	/	回転糸切。高台貼付			全体に摩滅。転用粘土

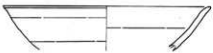
第５表　百目木遺跡第 38 次調査出土土器観察表

				形態		出土		寸法（cm）			石材	特徴等
図	番号	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	幅	厚さ		
15	12	RA126	1	石製品	紡石	カマド袖石	－	19.6	11.1	9.6	火山岩（輝石）	二面に使用痕跡あり

第６表　百目木遺跡第 38 次調査出土石製品観察表



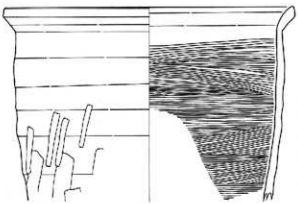
1　土師器坏-RA125 北東部-墨書



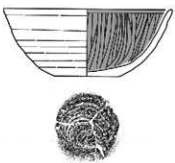
2　あかやき土器坏-RA125 北西部

3　あかやき土器坏-RA125 北西部

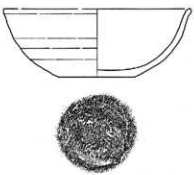
4　あかやき土器坏-RA125 ベルト北側



5　あかやき土器甕-RA125 ベルト北側



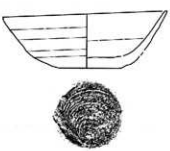
6　土師器坏-RA126 カマド左袖脇-床面



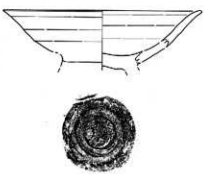
7　土師器坏-RA126 カマド左袖脇-床面

8　あかやき土器坏-RA126 カマド-床面

9　あかやき土器坏-RA126 北東部-床面



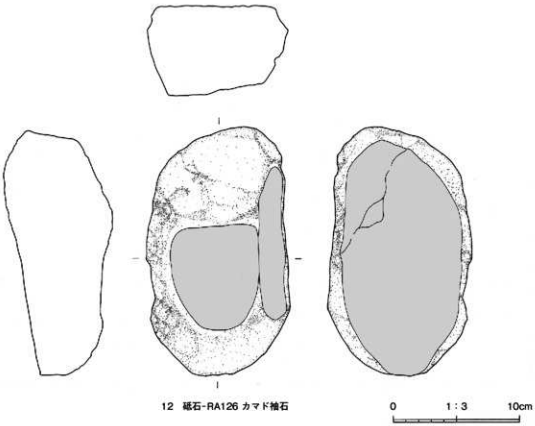
10　あかやき土器坏-RA126 カマド右袖



11　あかやき土器高台付坏-RA126 カマド左袖脇-床面

0　1：3　10cm

第 14 図　百目木遺跡第 38 次調査出土土器



第 15 図　百目木遺跡第 38 次調査出土石製品

写 真 図 版

西鹿渡遺跡第 39 次調査区全景（南東から）

RA61 竪穴建物跡（北東から）

第２図版

RD046 土坑（南東から）

RD047 土坑（南から）

RA061 竪穴建物跡遺物出土状況

RA061 竪穴建物跡土製紡錘車出土状況

RA061 竪穴建物跡切子玉出土状況

RD046 土坑遺物出土状況

西鹿渡遺跡第 39 次調査区（北西から）

試掘トレンチ（北から）

RA061 竪穴建物跡出土土器

RD046 土坑出土土器

RA046 土坑出土底部穿孔小型坏

RA061 竪穴建物跡出土土製紡錘車

RA061 竪穴建物跡出土切子玉

第４図版

百目木遺跡第 38 次調査区全景（南西から）

RA125 竪穴建物跡（西から）

RA126 竪穴建物跡（西から）

RA126 竪穴建物跡出土土器

RA126 竪穴建物跡石組カマド復元（西から）

報告書抄録

ふ り が な	もりおかしないいせきぐん
書　　名	盛岡市内遺跡群
副 書 名	令和２年度発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ番号	
編 著 者 名	鈴木俊輝、津嶋知弘
編 集 機 関	盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館
所　在　地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地１　電話 019-635-6600　Fax 019-635-6605
発 行 機 関	盛岡市教育委員会
発 行 年 月 日	2023 年１月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
				世界測地系				
西鹿渡遺跡（にしかどいせき）	岩手県盛岡市（いわてけんもりおかし）三本柳２地割（さんぼんやなぎ）37-9	03201	LE27-1046	39°39′55″	141°09′50″	2020.08.18 ～ 2020.09.04	83.7	個人住宅建築
百目木遺跡（どめきいせき）	岩手県盛岡市（いわてけんもりおかし）三本柳５地割（さんぼんやなぎ）41-2		LE27-1096	39°39′41″	141°09′51″	2020.10.13 ～ 2020.10.27	58.5	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西鹿渡遺跡 第 39 次	集落	奈良時代 古代以降	竪穴建物跡　１棟 土坑　１基 土坑　１基	土師器、土製品、石製品	
要　　約	西鹿渡遺跡は、これまでの調査で奈良・平安時代の竪穴建物跡が 40 棟以上確認されている古代の集落遺跡である。本調査では奈良時代の竪穴建物跡や土坑が確認され、土師器や土製紡錘車、水晶製切子玉などが出土した。				
百目木遺跡 第 38 次	集落	平安時代 古代 近現代	竪穴建物跡　２棟 土坑　２基 溝跡　２条 廃棄土坑　３基	あかやき土器、土師器 陶磁器、ガラス瓶	
要　　約	百目木遺跡は、これまでの調査で奈良時代を主体とする竪穴建物跡が 100 棟以上確認されている古代の大規模集落遺跡である。本調査では平安時代の竪穴建物跡が確認され、あかやき土器や土師器などの遺物が出土した。竪穴建物跡のうち１棟はカマドの石組が残されていた。				

盛岡市内遺跡群

－令和２年度発掘調査報告書－

2023 年 1 月 31 日　発行

編集　盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館

〒 020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1

TEL 019-635-6600　FAX 019-635-6605

発行　盛岡市教育委員会

印刷　株式会社　文協印刷

〒 020-0835　岩手県盛岡市津志田 15 地割 35 番地 5

TEL 019-638-3901　FAX 019-638-3144